

1. おうちだにじんじゃほんでん からもん はいでんおよびへいでん  
檮谿神社本殿・唐門・拝殿及び幣殿

所在地	鳥取市上町87
指定年月日	昭和27年7月19日 国指定
概要	



鳥取藩主池田光仲は、東照大権現廟舎の造営を幕府に願い出て、慶安2年(1649)に大日谷(檮谿)を選んで着手し、翌3年9月13日完成した。東照大権現は徳川家康の死後に与えられた神号で、寛永13年(1636)に日光東照宮が完成している。

造営は、家老荒尾但馬守成直を総奉行として、幕府お抱えの御大工・木原木工允、藤原義久らがこれに参加した。木原木工允は、日光東照宮・芝東照宮(安国殿)、上野東照宮、浅草寺(本堂・五重塔)などを建立した棟梁である。

各地の東照宮の多くは権現造りであるが、鳥取東照宮は本殿を周囲に石玉垣をめぐらして独立させ、本殿前に平唐門の中門を設け、拝殿と幣殿は接続している。

『因府録』には、「御本社は檜白木の造営檜皮葺なり、智頭郡より伐出る良材にて1本をもって御本社を建てらるるに其用猶余り有といひ伝ふ」とあり、細部の手法は日光東照宮にならった華麗なもので、内外部・軒廻り・妻飾りなどは生漆塗り仕上げ、本殿・唐門の一部は彩色塗・本漆塗がほどこされていて、桃山風型式の豪華な飾り金具が各所に使われて美しい品格をみせている。